

平成 29 年度 第 2 回座間味村総合教育会議 議事録

日時：平成 29 年 11 月 21 日（水） 14：00～ 14：50

場所：座間味村役場 2 階 会議室

出席者： 中村光男教育長 市村志津子委員 照屋学委員

宮里哲村長 松田力総務・福祉課長 田中英理子課長補佐（事務局）

1 開 会

村長：今年度 2 回目の総合教育会議を開会する。予算編成期のため、次年度に向けての要望を中心に伺いたい。

2 議 事

(1) 平成 30 年度教育関連予算について

教育長から平成 30 年度予算要求について

- ・幼稚園舎については建設費用が増大し調整に時間がかかったが、12 月議会での補正予算 3,100 万円が承認され次第、年度内完成は厳しいが進めていく。
- ・学校教育予算関係は総額およそ 4 億 8 千万円である。
- ・一括交付金事業のインターネット村塾は参加率が低いなど課題もあるが、塾が他に村内にないこともあり、競って参加する体制づくりをしながら継続したい。
- ・孀恋村交流とホームステイ事業は、沖縄県地域振興協会事業（旧対米請求権事業）を活用して継続したい。

委員から予算要求について

市村委員 子ども図書館はあるが、村民（大人）が利用できる図書館がない。座間味村の歴史・文化に関する書籍を閲覧できれば、雨天時の観光客利用にもつながる。

村長 村の文化的な側面を知っていただくためにもよいことだ。

教育長 座間味港西側に建設計画がある公共施設にスペースをつくれなにか。

総務・福祉課長 歴史資料館の一部に、コーナーを作り座間味村関連の本を置くなどできるかもしれない。

村長 最初は座間味村の歴史・文化・自然にかかわる本だけでもよいかもしれない。阿嘉、慶留間、座間味のバランスも考慮し、管理する人を常駐させることも検討しつつ、教育委員会中心に私の部局とも意見交換し議論を深めていただきたい。

照屋委員 教室のクーラー整備の件はいかがか。

村長 第1回の総合教育会議でもこの話題が出た。座間味小がオープンな構造なので、整備するとしたら大容量のものが必要ではないかということだった。学習環境も改善すべきだと思うが、沖縄本島などは騒音問題もあいまってエアコン整備が進んでいる。本村としては、クーラーが設置されている特別教室をうまく活用できないかのご提案しているところだ。

教育長 オープン教室の間仕切り方法も考えつつ、議論していきたい。

村長 私の公約に掲げ今年度から予算化させていただいている年4回の帰省のための高校生の乗船料免除、ホームステイ5名に増員する件については、次年度も実施していただくようお願いしている。給食費の減免についても踏みこんでいきたいので、教育委員会事務局に情報収集をお願いしているところだ。

私から、文化財審議委員会の進捗状況を伺いたいのがいかがか。延長保育の件も人材不足ということで進まないようだが。

教育長 延長保育は人材がネックであり、島出身者がいればよいと思うのだが。

村長 島出身者でなかなか見つからないようなら、村外から募集するしかないが、住む場所がないのが問題なのだと思う。思考停止に陥らないで、住宅整備を要望するなど立場の違う担当課長同士で議論を戦わせてほしい。

教育長 文化財審議委員会については人選を終え、今年10月10日に第1回審議会を実施したところだ。

村長 歴史文化関連の一括交付金事業ともぜひ連携していただきたい。給食費についても、必要ということなら予算要求してほしい。

また、離島学生寮について、定員オーバーが指摘される一方で退寮者も一定数あるようだ。現状規模でよいのか委員会で精査していただき、必要なら一括交付金があるうちに離島町村が共に手をあげないといけない。また、寮の運営方法について改善すべきことはないのか把握していただきたいと思う。

(2) その他

市村委員 観光客が増え、入れ墨の方も目立つが風紀上どうなのか。上着をはおってほしいと促しているが、ファミリー客にも印象はよくない。村としての考えはどうか。

村長 ファッションのタトゥーなのか、入れ墨なのか、難しいところではある。地域の感情としてはおっしゃる通りだが、ファッションは自由なので入域をお断りすることは難しい。警察とも意見交換してみたいが、船の中や集落で内は上着を着ていただき露出を控えるなどの配慮を促していきたい。

市村委員 先日教育委員の研修があり、新教育制度や総合教育会について報告があった。本村はこの会議の議事録公表については行わないのか。

村長 特に支障はないと思うのでやっていきたい。

市村委員 他自治体の総合教育会議の成果として、災害が発生した場合の連携について発表があったが、本村は避難訓練の際に以前から連携があると聞いている。

学習指導要領が改定されるのでその資料もお渡ししたい。

村長 貴重な資料をご提供いただきありがたい。

総合教育会議については、首長の政治的背景が反映されるのではないかというネガティブな考えもあるようだが、私は教育現場に思想信条をもちこむつもりはなく、連携が深まるメリットは大きいと感じる。

先日発達障害児童の療育相談について専門家に相談員を委嘱したところだが、こうした活動を通じて学校と家庭、行政の意思の疎通にもつながる。今後は学習支援員の確保についてなども、住居の問題も含めてこの会議の場を通じて連携を密にしていきたい。

村長 「離島高等学校群」創設に向けての動きが広がりつつあるのでご紹介したい。現在、東京の大学の先生が提唱され内閣府や県議も含め離島のインターネット高校の勉強会がはじまった。私としては総論賛成だが、ちょっと待ってほしいと申し上げている。島外に出ていく子供たちが何を考え期待して島を出ていくのか、耳を傾けてほしい。親の立場としても、子どもたちの自立を考えると小規模離島に18歳まで留まることが必ずしもよいとは思えない。教育委員会でも考え方をまとめていただき、村としての見解を出したい。次回の会議ではぜひ意見をとりまとめたい。

市村委員 個人的には島から大きな世界に出てほしいと思う。通信教育は学習環境自体が変わらないので緊張感がなく、限界があるのではないか。離島に住んだことのない方の意見ではないかと思う。

照屋委員 村塾もなかなか人が集まらないと聞くが、島によって環境も異なり、考え方が違うのでは。

村長 村塾についてはやり方も違うのかもしれない。与那国と北大東は学力が上がっていると聞くので教育委員会職員にぜひ見てきてほしい。

子どもを本島に出して成長させるためにかかる親の経済的・精神的負担を軽減することを目的に学生寮をつくったのが我々の原点。多くの生徒がいれば、中には島での学習が好ましい子供もいるかと思うが、基本的には小規模離島から外の広い世界に一度出したほうがよいと感じる。

(3) 次回開催について

年度明けになるが、来年6月の定例教育委員会開催日に行う。

以上

当日配布資料

平成29年度第1回会議録